

# 子どもが主体的に学ぶ外国語学習のために

## ～ 小学校教員海外語学研修事業 ～

平成 27 年度に始めた「小学校教員海外語学研修事業」は、今年で 4 年目を迎えました。研修校であるオーストラリア・バルコムグラマースクールでの実習やホームステイを通して、参加教員の英語運用能力と指導力向上を図るとともに、各区域の中心となる英語教育推進リーダーの育成、中核教員等を中心とした指導体制の強化を目指しています。

今年度は、芝園小学校・片山遼教諭と杉原小学校・八嶋裕美教諭が約 1 か月の研修を行いました。2 人は日本語授業の一部を担当し、現地の小学生に日本語指導を行いました。教育長への研修修了報告会では、現地での実践を通して、子どもたちが主体的に学習に取り組むために教師の手立てが大切であることや、外国語を学ぶ際にジェスチャーが大変有効であることを実感し、今後の外国語活動の授業実践に生かしていきたいと、抱負を述べました。

12 月には、杉原小学校で外国語活動公開授業研修会及び研修報告会を行いました。授業後の協議会では、新学習指導要領でねらう子どもの姿を視野に入れ、活発な話し合いとなりました。1 月にも芝園小学校で研修会及び報告会を行いますので、ぜひご参加ください。



＜八嶋教諭の授業の様子＞



＜片山教諭の授業の様子＞



＜教育長室での研修修了報告会＞

# 家庭との連携の在り方を考える

## 家庭との連携に関する研修会～先生を元気にする集い in 富山～

毎年「家庭との連携に関する研修会」でご講義いただいている大阪大学の小野田 正利教授のご提案で、今年度は特別企画「先生を元気にする集い in 富山」として、シンポジウムと 5 つの分科会を行いました。

シンポジウムでは、「増える要望・苦情にどう向き合うか～教師と保護者の関係づくり～」として、「イチャモンの裏にあるもの—父ちゃんの愛情弁当」を題材とし、5 つの質問について考えました。小野田先生と 3 名のシンポジスト、そして、桜谷小学校 教頭 杉林 千里先生から、それぞれの立場や経験に基づいた示唆に富む意見を聞くことができました。その後、講師の先生方の専門性を生かした 5 つの分科会を行いました。



＜シンポジウムの様子＞

受講者からは、「カラーの異なるシンポジストのご意見を小野田先生がつないだときに生み出される一筋の光が、我々の元気につながると確信しました」「弁護士の方から、直接話を聞くことのできる貴重な機会でした。具体事例を基に、迅速な対応の大切さについて考えさせられました」などの感想が聞かれ、保護者との関係のみならず人間関係について考える大変充実した研修となりました。

【シンポジウム】	【分科会】
増える要望・苦情にどう向き合うか ～教師と保護者の関係づくり～ 小野田 正利 先生    瀧野 揚 三 先生 岩田 康之 先生    井上 惠 先生 杉林 千里 先生	「人間関係の取り方を再確認しよう」 ..... 松本 剛 先生 「トラブル発生時の第三者対応」 ..... 野田 隼人 先生 「保護者との良好な関係の構築」 ..... 嶋崎 政男 先生 「保護者とのよりよい関係づくり」 ..... 和井田 節子 先生 「いじめ、不登校への適切な対応のために」 .... 佐々木 千里 先生